

# Shipping Guide

基本発行日：月・水・金曜（週3回） 昭和50年12月20日 第3種郵便物認可 1部416円  
発行所 株式会社 オーシャンコマース 〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目2番11号（葵ビル）  
TEL：(03) 3435-7470（編集）・7510（広告・スケジュール）・7630（販売・総務）  
FAX：(03) 3435-7892（編集・広告・スケジュール）☎：0120-827-773（購読・書籍のお問い合わせ、申し込み）

〈臨時増刊号〉

Monday, July 5, 2021

© Shipping Guide

## T.S. LINES 20th Anniversary Issue



### Chairman's address on 20th Anniversary of T.S. Lines

**"We grow together with our customers  
in pursuit for ever lasting cooperation"**

It is exactly 20 years ago on this day when TS Lines was established. 20 years ago TS Lines initialised our journey from Taiwan, although we didn't have our own vessel calling Japan but it is without a doubt the most important stronghold of our network from the beginning. TS Lines began our service here via slot purchase which covered the majors ports in Japan. Through years of continuous support from our loyal customers we were able to continuously improve our network as well as service quality. Of course, none of these would have been possible without the relentless

support from our stevedores throughout Japan. Regardless of the adverse and challenging market condition, they are always there to provide flawless services for us and our customers. We have established TS Lines (Japan) from the year 2013 but prior to that it has been Ben Line who represented us and guided us to familiarise and internalise local know-hows.

With TS Lines heading into its twenties, we are committed to persistently evolve and excel our service level, at the same time investment are continuously made in

upgrading our hardware. We have commissioned 30,000+ teus containers in 2021 and by the end of this year we will have increased our owned vessels to a fleet of 25. We have 4 x1900 teus and 4x7000 teus vessels in the order book which will be delivered throughout 2022-2024.

20 years marks a commemorative moment for TS Lines, and we are devoted to strive for further excellency in the years to come and grow



together with our customers in pursuit for ever lasting cooperation.

**Teh Sheng Chen**  
Chairman and CEO  
T.S. Lines Ltd.

#### ご挨拶

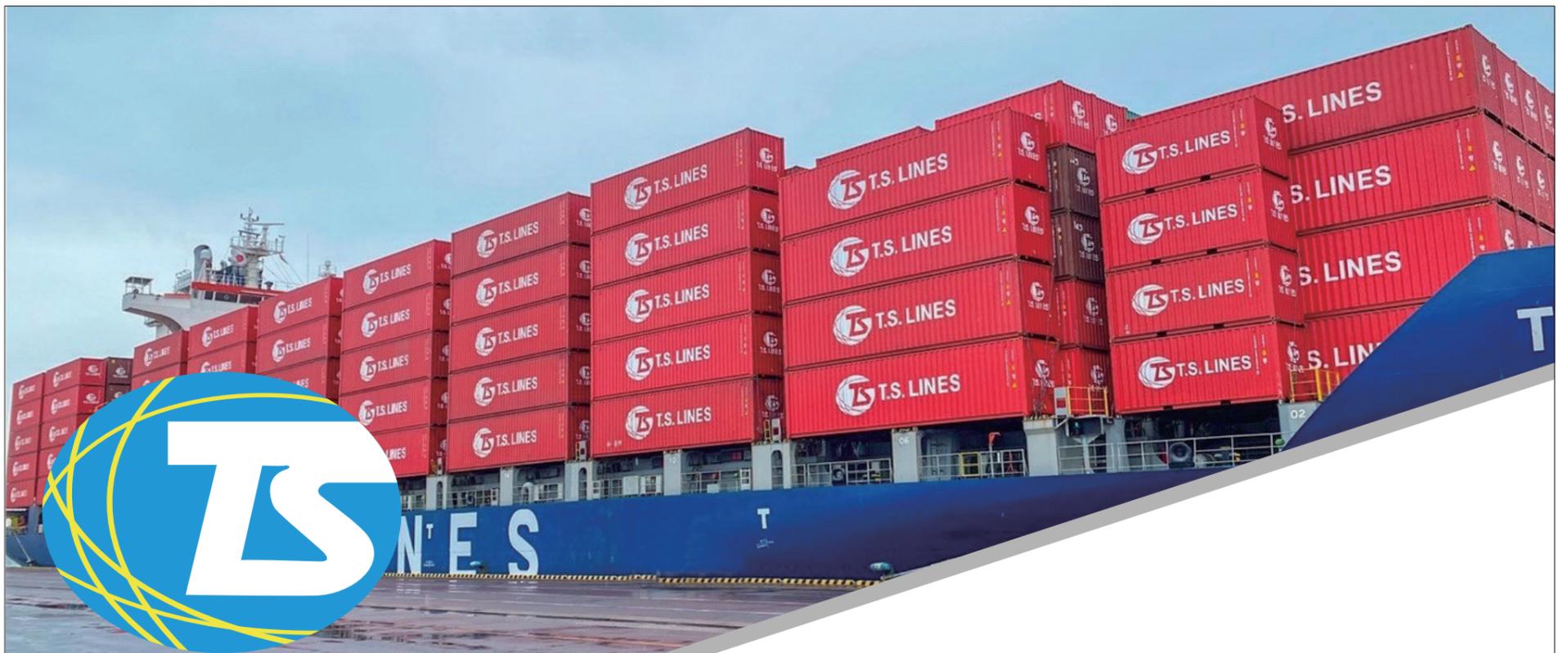
T.S. Linesは20年前のこの日に創業しました。20年前、T.S. Linesは台湾からの航海を開始しましたが、当社は日本に寄港する自社船はありませんでした。T.S. Linesにとり、日本は創業時から最も重要な拠点であり、他社スロットを利用したサービスを開始しました。そして重要な顧客による永年に亘る継続的なサポートで、私たちは航路網の拡充とサービス品質のためめ改善が可能でしたが、これらは、一方でステベ業務を始めとする日本全国の港湾関係者の支援なしには実現できないものでした。逆風の中の厳しいマーケットの時でも、港湾関係の方々はT.S. Linesとその顧客に完璧なサービスを提供するために常に対応して頂きました。2013年には自前のT.S. Lines (Japan)に営業、運航業務などが移りましたが、それ以前はBen Line Agencies (Japan) が代理店をつとめ、

日本のノウハウを取り込み、理解するよう指導してくれました。

TS Linesが20年を迎えるにあたり、私たちは絶えず進化し、サービスレベルの向上に取り組むと同時に、(船隊、コンテナなど) ハードウェアの向上に継続的に投資します。2021年に30,000 TEU以上のコンテナを発注し、今年末までには自社船を25隻に増やします。デリバリー待ちの発注残は1,900TEU型4隻と7,000TEU型4隻で、2022年から2024年にかけて引き渡しの予定です。

T.S. Linesにとっての20年は記念すべき瞬間であり、我々はこのからの年月をさらに優位性を追求し、お客様と共に成長、いつまでも変わらないお客様との協力を追求してまいります。

徳翔海運股份有限公司  
董事長  
陳 徳勝



**T.S. LINES**



**Sailing along your needs**

**We express our deepest appreciation to  
thank you for being with our services  
to/from all Asia for  
20 years and years to come.**

### T. S. Lines (Japan) Limited

東京本社 〒110-0005 東京都台東区上野5-8-5 フロンティア秋葉原 6階  
TEL 輸出03-5826-8731 輸入03-5826-8734  
大阪支店 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町1丁目10-24 三共本町ビル 11階  
TEL 輸出06-6447-4600 輸入06-6447-4700

# T.S. Lines 20th Anniversary

## Gavin To 社長に聞く

### T.S. Linesのビジネス哲学とこれから

陳徳勝 (Teh Sheng Chen) 会長が2001年7月6日にT.S. Lines (徳翔海運有限公司) を設立して今年で20周年を迎えた。陳会長はT.S. Linesを起業する前に他の大手台湾船社の社長をつとめるなど約20年の実務経験を持ち、営業をはじめ、船の建造から運航、新サービスの開発、財務管理まで幅広い知見を持っていた。そのため、T.S. Linesを立ち上げた後、米同時多発テロやリーマンショックなど景気後退による海上輸送へのマイナスの影響を経験したが、培った洞察力や管理能力で乗り切り、今日のT.S. Linesを築いた。T.S. Linesの事業哲学は卓越した対処能力とその共有による優れたサービスの提供。そのためにはトップから社員までが柔軟で革新的な発想による企業家精神を持って対処する企業文化を持ち、それらを最も大切な「価値」として、さらに強化するため、その徹底を図る。

T.S. Linesは新規参入から10数年で台湾の大手コンテナ船社の一角を占める4位にまでに成長した。参入時期は米同時多発テロの年で決して良い時期ではなかったが、T.S. Linesチームは安定したフラットな組織とガバナンス、アクティブな社員の努力で、いち早く抜け出し、さらに、経営トップの精緻なマネージメントとネットワークで市場価格が低いときに船を建造、コンテナ、不動産などの固定資産を購入し、競合する他船社とも相互に船腹スペースを交換、コストとリスクを引き下げつつサービスを拡大、多様化する顧客のニーズに応え、着実に成長し続けることができた。

T.S. Linesが成長、発展できたのは経営トップを始め、海外法人を含むT.S. Lineチームの結束と努力の賜物だろう。T.S. LinesのGavin To社長にビジネス哲学や企業文化について聞いた。

**Q** How many people did you work with when you founded the company? (創業時の社員数は何人でしたか)

**Gavin** - About 20 workmates joined from day one. (創業初日から約20人の社員が集まりました)

**Q** How many people are working with now in your office, Hong Kong, Taipei and all over the world? (現在の香港、台北

本社と世界中の社員数は何人ですか)

**Gavin** - Per HR data Hongkong :91Taiwan: 334 (TSL\_220+TSS\_114) TSL group: 1041 (inclusive of TSS\_114) (人事部のデータによると、香港91人、台湾334人 (うちT.S.Lines 220人、TSS114人)、世界 (TSSを含むTSLグループ) 1,041人です)

**Q** Who was the first Key client of the

Company? (最初の主要顧客はどこでしたか)

**Gavin** - Formosa group is one of them. I do appreciate many customers who trust us and support us from the very beginning. (\*Formosaグループは最初の主要顧客の1社でした。T.S. Linesを信頼し、創業当初から支援して頂いた多くの顧客に本当に感謝しています)

\* Formosa Plastic Group (台塑集団、台湾プラスチックグループ): 合成樹脂、



石油化学から製鉄分野まで幅広い事業を手掛ける台湾最大の企業グループで、売上高は台湾のGDPの約15%に相当する。

**Q** What kind of company do you want T.S. Lines to be? (T.S.Linesはどんな会社になって欲しいですか)

**Gavin** - An aggressive and rapid growth company with full humanity. It is like a family, TS Lines family. Of course, I do hope T.S. Lines will be one of the main players in market and well recognized around the world. (人間性に溢れ、常に「攻め」の姿勢で成長性に優れた会社です。それは家族、あたかもT.S. Lines家族のようなものです。もちろん、T.S. Linesが海運界で主要な船社の1社であり、世界でも一目置かれる存在であることです)

**Q** T.S. Lines is the one of the few successful companies in shipping business in Asia. Data in Japan shows only 0.3% of the companies survive 20 years after of its foundation. What factor did make success to T.S. Lines?

(T.S. Linesは、アジアの海運業で成功を取めている数少ない船社の1社です。日本のデータによると、設立から20年後に存続する企業はわずか0.3%ですが、T.S.

Lines成功の要因は何ですか)

**Gavin** - It has been asking by many people in the past twenty years. We have workmates who treats company affairs as their own business as well as dedicated himself in pursue cost

(サービス第一、卓越した業績と利益の共有です)

#### Next Step

**Q** What kind of years will be the next 20 years to come for T.S.Lines? (T.S. Linesのこれからの20年はどのような年になりますか?)



台北本社の 宏國大樓

cutting and higher revenue continuously. Think it is the key element leading us to be a successful story up to now. The whole of TS Lines team will continue devote to the same in coming years.

(過去20年間、多くの方から聞かれました。会社業務を自分の事として扱い、常にコスト削減と増収を追求する社員がいます。これが私たちの成功の秘訣です。我々、T.S. Linesチームはこれからも同じように専念し続けるでしょう)

**Q** What is your business philosophy or what kind of things do you always keep in mind in business? (あなたのビジネス哲学は何ですか、または、あなたはビジネスでどのようなことを常に心がけていますか?)

**Gavin** - Service first, superior performance and profit share.

In the wake of fast expansion in the first 20 years, we start to induce ERP system to enhance management. To increase own vessel and container fleet. In addition, to recruit more qualified, young staffs who will support company growing in next decades. Generally speaking, we already have good foundation and will focus on moderate and profitable growth. The most important thing is to retain profit year by year regardless of economic cycle and share profit to shareholders and workmates as much as we can.

(最初の20年の急拡大に続いて、マネージメントを強化するためにERP (基幹システム) 導入を開始しました。自社保有のコンテナ船とコンテナフリートを増強し、さらに、今後数十年、

# T.S. Lines と共に歩んで20年

# T.S. Lines 祝 20周年

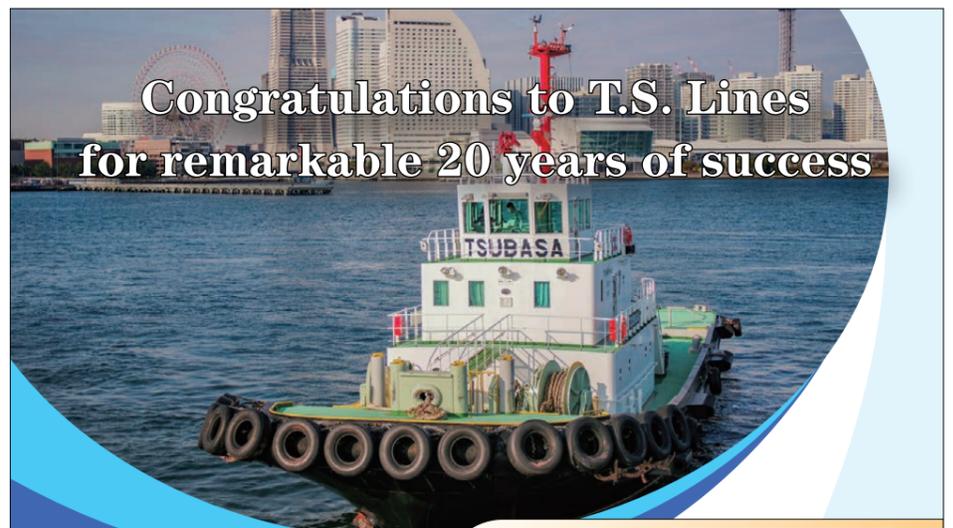
## 20th Anniversary



スケジュール通りに船を出航させるため、スピードと高い安全性の両立された作業体制で T.S. Lineを支えています。

門菱港運株式会社

〒801-0834 福岡県北九州市門司区本町1番5号 Port Moji 壱番館3階



Congratulations to T.S. Lines for remarkable 20 years of success

We wish you all the success for many more years to come with our "Red Mast"



Shin-Nippon Kaiyosha

19F., The Minatomirai Center Bldg., 3-6-1 Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama, Japan 220-0012

Tel. 045-212-4051 Fax. 045-212-4057

URL: <https://www.snkaiyosha.co.jp>

さらに成長する企業に必要な、より業務能力の高い若いスタッフを採用します。概して、我々は企業としてすでに良い（営業）基盤を持っており、中庸で収益性の高い成長を目指します。最も重要なことは、景気の変動サイクルに関係なく年ごとに利益を確保し、可能な限り株主や社員に利益を分配することです

**Q** Does your company aim to be a global carrier, like Evergreen Line, or, professional specialized regional carrier?

(Evergreen Lineのようなグローバルキャリア、または地域専門の専門船社を目指しますか?)

**Gavin** - We never rule out the possibility as long as chance approaches and risk is controllable. We are not in a rush but will grasp every chance to make it happen. (チャンスがあり、リスク管理が可能であれば、我々は可能性を排除することはありません。私たちは急ぎませんが、それを実現するためにあらゆるチャンスをつかんでいきます)



## T.S. Lines 20年の軌跡

**2001年** 7月6日に社員約20人で創業。香港、台湾、日本サービスを開始

**2002年** 華中、華北、香港、フィリピン、インドネシアサービス開設、シンガポール、マレーシア、東インドヘルフト延伸。

**2003年** 台湾、香港、ホーチミンサービス開始。ヤンゴン航路、華中、華北、香港、カンボジア、タイ、ホーチミン、さらに華中、華北、香港、シンガポール、マレーシア、インドへのルートで協調運航開始。

**2006年** China-India Mideast Service (CME) 開設。上海～京浜 (SJX) 開設。

**2007年** 東アフリカサービス開始。“TS Hongkong”を買船。

**2008年** 華中、韓国、インドネシアサービス開始、バングラデシュ追加寄港。08年の積み高は115万TEU（世界30位）に。

**2009年** 上海～京浜 (SJX) でCCLとスロット交換し、関西にも寄港。KMTCTと協調で韓国・中



国～タイ (CHT)、韓国・中国・越・タイ・インドネシア (ANX) 開始。

**2010年** 日本／香港・海峡地 (JST) 開設。日本／台湾・香港・華南航路 (JTK2) をインドネシアに延航し、ジャカルタ、スラバヤ直行に。中国～豪州 (CAX) 航路開設。徳翔航運有限公司から徳翔海運有限公司に社名変更（英文社名は変更なし）、ロゴマークも一新。JTKをサービス改編し、

JTK2でマニラ直行。Gold Starと協調、中国・中東サービス開始、極東/PSWでCentral-China-USWC-Express (CAE) サービス開始（その後休止）。コンテナ2.6万TEU新造。10年の積み高154.8万TEU、売上高270億台湾ドル、純利益24億台湾ドルを確保。約40隻を36サービスで運航、世界22位に。

**2011年** Japan Taiwan Hong Kong (JTK) 開設。海峡地～ヤンゴン航路、中国～インド航路 (ICX) をHanjin, CMA CGM, BTLと協調で開設。台湾・香港～インドネシア (THI)、台湾～ハイフォンの各サービス開始。厦門、青島、天津、武漢と重慶に支社

設立。  
**2012年** COSCONと協調し中国／東南アジアのCSE Service開始、HMMと協調し、韓国・中国・シンガポールとインドを結ぶChina India Express (CIX)、CNCと協調による日本／極東／タイ航路のJTT Serviceをそれぞれ開始。インド支店、中東支店を設立。

**2013年** 日本での運航、集荷営業を自営し東京本社、大阪支店に。日本・韓国・台湾・香港～越のJTT開設。KMTCTと協調でNew China-Indonesia (NCI)、日本郵船、川崎汽船と協調し日本～インドネシアのJIS、JIEを開設、KMTCT、Heung-Aと提携し韓国・中国とタイ、マレーシア、シンガポールを結ぶKorea China Malaysia Service (KCM)、Korea China Thailand

皆様ありがとうございます。

T.S. LINESは2001年7月に創業し、今年で20周年を迎えることができました。

T.S. Linesは創業と同時に日本サービスを開始、当初は他船社のスペースを借り受けた細々としたサービスでしたが、2002年に自社運航船を投入し、本格的なサービスを開始、現在では45隻、運航船腹量9万3,000TEU、うち自社船20隻、4万9,000TEUの世界21位の船社に成長しました。

創業時は2000年後半から世界景気の減速の兆しに加え、2001年9月11日に米国で発生した同時多発テロの影響などにより、一層の減速となり、日本も景気後退局面に転じ、荷動きが悪

化、新規参入のタイミングとしては決して良いとは言えませんが、持ち前のチャレンジ精神で2002年6月の自社運航開始後は徐々に販路を広げる事ができました。アジア域内の荷動きは増加に転じましたが、運賃水準は低迷し、採算の厳しい状況でした。

それでも日本発着の貨物量は徐々に増え2008年のリーマンショックまでは輸出入とも右肩上がりの状況が続きました。幸い、リーマンショックの影響は短期間で収束、その後もサービス強化に伴うシェアの拡大に

注力し、2013年5月には日本での集荷・営業、運航などの業務を従来の代理店委託から自前のT.S. LINES (JAPAN)に移管し、現在に至っております。

厳しい時代を共に乗り越え、今日20周年を迎えるT.S.LINESがあるのは多くの顧客を始め、港湾関係を中心とした皆さまの絶大なるご支援の賜物と深く感謝しております。

今後も旺盛なチャレンジ精神でより良いサービスを目指して努力する所存ですので、何卒、宜しく願います。

T.S. Lines (Japan) Ltd.  
代表取締役副社長  
高多 純一

## T.S. Lines 20th Anniversary

Congratulations on all your efforts and achievements!

*T.S. Lines started small, but today the company is amongst one of the top carriers in the Intra-Asian trade.*

*We wish you all the best for your future.*



SHIBAURA TSUSEN KAISHA LTD.  
Head Office: SHIBATSU BLDG.  
3-1-3 Kaigan, Minato-ku, Tokyo 108-0022  
Phone: 03-3454-1331 Fax: 03-3455-2194

## Congratulations 20th Anniversary 祝 T.S. Lines 創立20周年



人と社会に貢献する  
愛知海運株式会社

〒455-0037 名古屋市港区名港二丁目9番31号  
TEL:052-651-3221(代表) FAX:052-661-0801(代表)  
URL: http://www.aikai.co.jp/

## 祝 T.S. Lines 20周年 20th Anniversary



迅速で正確なコンテナ業務で  
皆様を支えています。

TKK 東海協和株式会社  
TOKAI KYOWA CO., LTD

〒455-8539 愛知県名古屋市港区入船一丁目1番20号  
TEL:(052)651-3111 FAX:(052)654-0062  
URL: http://www.tokai-kyowa.co.jp/

Service (KCT)、China-Hong Kong-Thailand Service (CHT) を開設。日本法人の T.S.Lines (Japan) の代表取締役副社長に高多純一氏が就任。

**2014年** Yang Ming と協調し、日本～台湾・香港・比の JTS と香港・中国・台湾～日本・韓国・台湾・香港の PAS を開設。Cheng Lie と協調し、日本／台湾／ベトナム航路の Japan-Vietnam (JTV) を開始。

**2015年** 韓国、台湾、香港を結ぶ Korea Taiwan Hongkong (KTH) Service を開始、日本発着の Japan Philippines Express (JPX) を開始。台湾国際造船公司 (CSBC) に新世代の 1,800TEU バンコクマックスコンテナ船 4 隻を総額 4 億 8,500 万ドルで発注。ホーチミン支店を設立。

**2016年** KMTC と協調し、Thailand-Vietnam Philippines (TVP) Service 新設。JPX (日比中航路) を既存の JHT (日台中／タイ)、JTK (日台中)、

JTV2 (日台中越) サービスに統合、合理化。HMM と協調で韓中・海峡地・中東の Korean-Middle East Express (KME) を開始。APL (シンガポール) と協調し、日本～台湾・中国經由フィリピンの新サービス、JPX (Japan-Philippines Svc.) を開設。

**2017年** CSBC に発注した 1,800TEU 型コンテナ船 4 隻シリーズの第 1 船 “TS Bangkok” が JHT (Japan-Taiwan-Hongkong-Thai Express) Service 就航。



下関の旭洋造船に 1,096TEU のコンテナ船を 4 隻発注。WWF のフカヒレの船積み禁止に参加。

**2018年** 台湾の主要港湾業務を統括する台湾港務公司 (TIPC)、Yang Ming、Taiwan Navigation、中華郵便 (Chunghwa Post) の港湾、海運企業 4 社とともにシンガポールで台湾政府による新南向政策を後押しするため東南アジアをターゲットとした港湾、物流事業への投資会社、「台湾国際股份有限公司」(Taiwan

Foundation International Pte. Ltd.:TFI) 設立。地元企業との合弁による PT Formosa Sejati Logistics (資本金 500 万米ドル) を立ち上げ、インドネシアに進出する台湾企業や地元企業を対象に高品質のコンテナ物流、倉庫サービス、通関などのサービスを手がける。CSBC に新世代の 1,800TEU バンコクマックス船を 2 隻発注。旭洋造船に 1,096TEU 型コンテナ船 2 隻を 2020 年第 1 四半期 (1-3 月) と第 2 四半期 (4-6 月) の引き渡し予定で新規発注。

**2019年** CSBC と「1,800 TEU 級フルコンテナ船脱硫機改造エンジニアリング契約」を締結し、“TS Qingdao”、“TS Pusan” など 4 隻に搭載。うち 2 隻は上海船舶研究設計院 (SDARI) のスクラバー (排ガス洗浄装置) を搭載する環境対応、省エネ型で、2021 年 6 月から順次デリバリー。広州文冲船廠有限責任公司 (Guangzhou Hungpu Wenchong Shipbuilding) に 2,700TEU 型コンテナ船 2 隻を発注。CSBC で 1,800 TEU 型シリーズ 6 隻シリーズ船の第 5 番船 “TS Qingdao” の引き渡しを受

け、最終船は 12 月に引き渡し。旭洋造船建造 1,096TEU 型シリーズの 3 隻目 “TS Yokohama” の引き渡しを受けた。

**2020年** 華南／フィリピン航路で Manila Bay Express Service (MBX) と China Philippines Express Service (CPX) を並行して開設。Cheng Lie との協調の、中国／ホーチミン航路の North China HoChi Minh Express 2 (NCX2) と呼ぶ新サービスも開始。香港・華南／タイ航路で Thailand Reefer Express Service (TRX) と呼ぶ香港～南沙～蛇口～バンコク～レムチャパンの新サービスを開始。中国／ホーチミン航路の NCX2 開設に加え、中国／ベトナム／カンボジア航路で China-Vietnam-Cambodia Service (CVC) 名称による新サービスを開始した。旭洋造船で建造中だった 1,096TEU 型コンテナ船 4 隻シリーズの第 3 船、“TS Shenzhen”、第 4 船 “TS Kobe” の引き渡し。中国の中船黄埔文冲船廠 (CSSC Huangpu Wenchong Shipbuilding) と 1,900TEU 型コンテナ船 2 隻+オプション 2 隻の建造契約締結。最初の 2 隻は 2022 年第 3 四半期 (7-9

月) から第 4 四半期 (10-12 月) にかけて引き渡しを受ける。X-Press Feeders、KMTC と協調し韓国とインド西岸を結ぶ China West India Express Service (CWX) を開設。PIL から中古コンテナ船の “Kota Lagu” (4,253TEU、2005 年建造) を購入、優秀な海運業界の「グリーン SHIPPING パフォーマンス賞の開発」に選ばれ、“TS Singapore” など 4 隻購入。2020 年業績は積み高が 172 万 TEU と前年の 164 万 TEU に比べ 13% 増加、主力のアジア域内航路の運賃が年初の 80 米ドル / TEU から第 4 四半期 (10-12 月) には 800 ドル / TEU と 10 倍に急騰したことなどを要因に、売上高が 300 億台湾ドル (10.7 億ドル) に達し、純利益が前年の 3 倍にあたる 60 億台湾ドル (2 億 1,360 万米ドル) と、予想した 30 億台湾ドル (1

億 680 万米ドル) から 2 倍も上振れた。

**2021年** NSJ (Nansha-Shekou-Jakarta) サービスを開設。1,700～5,500 TEU 型 2 隻中古船購入をさらに拡大。世界 21 位のコンテナ船社で船腹量は 46 隻・10 万 2,936 TEU、うち自社船は半分以上の 24 隻。2021 年 1Q 業績は売上高が前四半期比で 36.5% 増の 123 億台湾ドル (1 台湾ドル = 3.93 円)、当期純利益は 80.8% 増の 60 億 3,000 万台湾ドル、1 株当たり利益 (EPS) は 180.5 台湾ドルを記録した。

**T.S. Linesの運航船腹量の推移**  
(各年10月時点。Alphaliner調べ)

Operated Fleet of T.S. Lines, data from Top 100 operated fleet as per October each year, compiled by Alphaliner

Year	No. of Ships	Total TEU
2005年	16隻	18,313TEU
2006年	17隻	23,000TEU
2007年	17隻	23,018TEU
2008年	26隻	45,502TEU
2009年	26隻	48,496TEU
2010年	39隻	80,796TEU
2011年	40隻	77,536TEU
2012年	46隻	91,854TEU
2013年	31隻	66,293TEU
2014年	34隻	63,102TEU
2015年	37隻	72,664TEU
2016年	40隻	85,725TEU
2017年	30隻	67,257TEU
2018年	39隻	87,195TEU
2019年	36隻	81,313TEU
2020年	39隻	85,156TEU
2021年 (6月)	45隻	93,060TEU

**世界の物流をデザインする**

株式会社 上組 兵庫県神戸市中央区浜辺通4丁目1番11号 TEL.078-271-5110(代表)

国際複合一貫輸送、港湾運送、重量貨物運搬据付、プラント輸送、倉庫、通関、陸海空貨物取扱、海運代理店、貨物自動車運送ほか

<http://www.kamigumi.co.jp/>

**CONGRATULATIONS TO T.S. LINES**

*On behalf of our entire organization Sumitomo Warehouse, we extend our heartiest congratulations to T.S. Lines for completing 20 glorious years of success. We wish you all the success for many more years to come. And we hope to continue doing business with you in future.*

[www.sumitomo-soko.co.jp](http://www.sumitomo-soko.co.jp)